

2024 年度  
関西学院初等部

## 学校評価を終えて

関西学院初等部は、2008 年の開校以来、初等部から高等部まで緊密に連携し、包括的な学校評価の仕組みを構築してきました。2010 年度からは評価の質を向上させるため、幼稚園から大学院までの教職員による「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。

私たちの使命は、関西学院の建学の精神であるキリスト教主義に基づく教育を通じて、世界市民の育成と全人教育の基礎づくりを実現することです。児童一人ひとりが“Mastery for Service”の精神を生涯にわたって実践できるよう、教員の指導力向上と保護者との協力体制を強化し、教育の質の向上に努めています。

2024 年度は「キリスト教主義教育」「教育課程・学習指導・学校行事」「生活指導」「研修（資質向上の取り組み）」を重点分野に設定しました。評価にあたっては、児童・保護者・教員からアンケートを実施し（回収率：児童 98.9%、保護者 80.9%、教員 100%）、多角的な視点から意見を収集・分析しました。

収集したデータについて教職員が詳細な分析を行い、各重点分野の進捗状況を確認しました。この分析結果に基づいて具体的な改善計画を立案し、自己評価を実施しました。さらに、関西学院中学部長や教育学部教授からの専門的な助言を「第三者評価／学校関係者評価」として取り入れ、これらを総合的な学校評価としてまとめました。

私たち初等部は、関西学院の全人教育の土台を築くという重要な使命を担っています。教職員と保護者が一丸となり、より良い教育の実現に向けて邁進してまいります。各教職員が自己の課題と真摯に向き合い、組織として継続的な改善に取り組むことで、さらなる発展を目指してまいります。

本学校評価の詳細は次ページ以降で項目ごとに報告するとともに、ホームページで公開し、社会からの信頼向上に努めてまいります。

2025 年 7 月

関西学院初等部  
部長 福万 広信

## 学校評価

### 教育理念・使命・目標

#### 【教育理念・使命】

キリスト教主義に基づく全人教育の「はじめの一步」を担う。

#### 【目標】

キリスト教主義教育を土台とした「建学の精神」を体得し、スクールモットーである  
“Mastery for Service” の実現をめざし、知性・情操・意志を備えた児童を育てる。

#### 【初等部聖句】

「幼子はたくましく育ち、知恵に満ち、神の恵みに包まれていた」

[意志]

[知性]

[情操]

### 2024 年度の評価項目

#### ・キリスト教主義教育

初等部の教育の根幹をなすものであるため、評価項目として設定した。

#### ・教育課程・学習指導・学校行事

教育理念にふさわしいカリキュラムを編成するために、この項目を設定した。

#### ・生徒指導

児童が安心して生活できる学校づくりをめざしているため、この項目を設定した。

#### ・研修（資質向上の取組）

より質の高い授業の実現を図るため、毎年の評価項目としている。

### 2024 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育 【キリスト教主義に基づく、たくましい生き方の育成】	自己評価	A
目標	建学の精神に基づき、キリスト教主義教育を初等部のあらゆる教育活動の中で展開し、児童がキリスト教の精神やスクールモットー“Mastery for Service”の精神を体得できるようにする。そのためにすべての教員、また保護者がその精神について共通理解をもち児童に向き合えるようにする。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>（具体的な取組の状況）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝のチャペルでの礼拝、クリスマスや花の日などの特別な礼拝、児童が担当する児童礼拝、クラスで行う昼礼や終礼などの礼拝を行い、創立者たちの思いを継承しながら礼拝を大切に守った。</li> <li>・全学年週1時間の聖書科授業や様々な教育活動の中で、児童・教職員が建学の精神やスクールモットー“Mastery for Service”を共有し、キリスト教主義教育を展開した。</li> <li>・児童宗教委員会が特別礼拝の司会を行ったり、クリスマス献金に関わったりすることで、児童が主体となった宗教活動を行った。</li> <li>・キリスト教主義教育の理念を保護者と共有する機会である全保護者対象の「聖書講座」（年3回開催）、PTA活動との連携による「聖書と讃美歌に親しむ会」（各学年ごとに年1回、計6回開催）を実施した。</li> <li>・教職員対象の「キリスト教研修会」を行い、キリスト教主義教育についての理解を深め、キリスト教主義教育の担い手として、どのように子どもたちに関わるかを考えた。</li> </ul>		

	<p>(取組の効果に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート問 2「こころの時間や聖書の時間は、あなたにとって大切な時間だと思いますか。」に対する肯定的な回答は、昨年度の 91.8%から 83.9%と 7.9 ポイント評価を下げている。「こころの時間 (朝の礼拝)」と「聖書の時間」は、初等部におけるキリスト教主義教育の土台であるので、児童がこの時間を大切であると感じられるように工夫をする必要がある。</li> <li>・児童アンケート問 3「“Mastery for Service ” (マスタリー・フォア・サービス) を大切にすることを心がけて生活していますか。」に対する肯定的な回答は昨年度の 83.6%から 86.4%と 2.8 ポイント評価を上げている。子どもたちが、“Mastery for Service” を学校生活の中で体現しようとしていることは、児童アンケート問 19「友だちが困っていたら、助けていますか。」、問 20「友だちの意見や考えをよく聞いていますか。」、問 21「相手の気持ちを考えて行動することができていますか。」の肯定的な回答の割合が高いことから読み取ることができる。しかし、児童アンケート問 18「思いやりのある友だちが多いですか。」に対する肯定的な回答は昨年度の 85.1%から 83.5%と 1.6 ポイント評価を下げしており、肯定的な評価も他の項目と比較して低いことから、意識はしているが実践が伴わない部分があると考えられる。</li> <li>・保護者アンケート問 3「学校は、キリスト教主義教育の理念について、保護者と共有する機会を設けている。」に対しては肯定的な回答の割合が 98.6%と昨年度同様に高い数値を維持している。全保護者対象の「聖書講座」(年 3 回)、学年ごとに開催している「聖書と讃美歌に親しむ会」(年 6 回) が評価されていると考えられる。</li> <li>・保護者アンケート問 4「学校は、キリスト教主義に基づき、人を思いやる気持ちや態度を育てている。」との質問に対しても、肯定的な回答の割合が 91.9%と昨年度同様の数値を示している。子どもの姿や学校の様々な働きかけに対して、保護者がキリスト教主義教育が浸透していることを感じてくださっていることが分かる。</li> <li>・保護者アンケート問 21「私は、関西学院のスクールモットーが“Mastery for Service”であることを知っている。」、保護者アンケート問 22「私は、関西学院のスクールモットー“Mastery for Service”に共感している。」、保護者アンケート問 23「学校は、『“Mastery for Service”を体現する世界市民』の育成につながる教育を実践している。」との質問に対しても、肯定的な回答の割合が、それぞれ 99.7%、99.8%、91.3%と高い数値を示している。この数値から保護者がスクールモットー“Mastery for Service”の精神とキリスト教主義教育を十分理解をし、肯定的に受け止めてくださっていることが分かる。</li> <li>・教員アンケート問 1「私は、礼拝や研修を通してキリスト教主義教育の理念を共有している。」、教員アンケート問 2「学校は、キリスト教主義教育を学校生活の中で具体化している。」に対する肯定的な回答は共に 100%となっている。教職員がキリスト教主義教育の理念を共有し、自らがその担い手であるという自覚をもって初等部の教育に取り組んでいることが分かる。</li> <li>・教員アンケート問 3 の「私は『“Mastery for Service”を体現する世界市民の育成』を意識しながら教育している。」に対する肯定的な回答も 100%と全員がスクールモットーを意識しつつ、児童が世界市民となることを願って日々の教育活動を行っていることが分かる。</li> </ul>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回、児童アンケート問 2「こころの時間や聖書の時間は、あなたにとって大切な時間だと思いますか。」に対する肯定的な回答がポイントを下げたことを</li> </ul>

	<p>踏まえ、形式的な礼拝ではなく、実感を伴った礼拝になるように工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが主体となって進めるクラスでの礼拝を充実させ、自分たちの歩みをふりかえり、他者のために祈ることを大切にする。</li> <li>・児童委員会の児童が中心となり、児童が主体となって宗教活動を展開していくようにする。</li> <li>・教職員がキリスト教主義の理念を様々な場面で共有し、児童や保護者と関わることでキリスト教主義教育をさらに浸透させていく。</li> </ul>
--	---

2024 年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導・学校行事 【真理を探究する確かな学力の育成】	自己評価	B
目標	「キリスト教主義に基づく全人教育による人間形成」を念頭に「各教科の特性や児童の興味・関心に応じた教育課程の工夫」また、「学力の的確な把握の上の学習指導」「豊かな情操を育む芸術文化活動」を目指す。		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度の活動に加えて宿泊行事（1年から6年）を復活させた。ただし、1年の宿泊に関しては校内キャンプとしての活動にとどめた。</li> <li>・来年度の宿泊行事を充実させたものにするため、現在のキャンプ地の代替え場所を候補に挙げて検討材料にした。</li> <li>・昨年度に引き続き国語、算数、体育の教科部会を毎月実施した。検討内容としては、期末テストの観点別の評価の共有、体育祭の開催時期の検討などを行った。</li> <li>・音楽祭を10月、体育祭を11月に実施することで子どもの体調を管理しながら実施することができた。</li> <li>・体育祭・音楽祭の開催時期を変更したことにより年間を4期に分けた時間割を構築することができた。</li> <li>・昨年度に引き続き、児童にどのような資質・能力を育てていくのか、初等部内で共有し、校内の授業研修を行った。</li> <li>・学校公開会を平日に行うことや人数を限定して行うことにした。</li> <li>・昨年度に引き続き、臨時休業時や欠席が続く児童に対してオンライン授業を実施した。その際、学級閉鎖や学年閉鎖の際の具体的なオンライン授業の進め方について教員間で共通理解を図った。</li> <li>・学習の相対的な到達度を把握するための実力テストを実施した。また、学力不振児童については算数の補習を行い、学習習慣の定着と学力の向上を図った。</li> <li>・補習対象児童とは別に、中学部への進学を注意喚起するために5年生以上の学力不振の児童並びに保護者を対象に面談を行った。</li> <li>・教科の評価基準を再度検討し、評価の適正化を図った。</li> </ul> <p>(取組の効果に対する評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート問1「学校は楽しいですか。」では、肯定的評価が昨年度 89.0%から 85.8%と昨年からポイントを下げている。これは、友だちとのより深いかわりがまだ不足していることが考えられる。しかし教育課程においての、児童アンケート問7「授業では、自分から進んで、友だちと話し合ったり、考えたり、まとめたりしていますか。」において、昨年度 78.8%から 83.0%と 4.2ポイント上げていることから考えると、授業の中だけでなく学校生活全体の見直しを考える時期にさしかかっていると考えられる。自由に自分の考えを伝えられる教室環境にしていくだけではなく、縦割りのつながりを意識できるような学校運営を考えるなど、今までの考え方を斬新的に変革できる仕組み作りを考</li> </ul>		

えていきたい。

- ・児童アンケート問 13「タブレットを使って学習に役立てることが出来ますか。」では、昨年度 93.8%から 96.9%と 3.1 ポイントを上げている。このことは、家庭と連携して iPad を有効活用できるよう働きかけをただけでなく、児童自身も iPad を活用し様々な交流を図ることができたことも要因の一つと考えられる。
- ・保護者アンケート問 1「子どもは、学校に行くのが楽しいと感じている。」では昨年度 94.1%から 94.0%と横ばいになっている。さらにポイントを上げていくためにクラス内、学年間だけでなく、異学年交流を増やし帰属意識を持てるような学校運営に努めていきたい。
- ・保護者アンケート問 8「学校は基礎的知識や技能が定着する授業を行っている。」では肯定的評価が 87.5%、保護者アンケート問 9「学校は基礎的知識や技能を活用する場面を取り入れた授業を行っている。」では肯定的評価が 86.3%と、昨年を下回る結果となっている。2025 年度から 3 年生以上を教科担任制とする。身につけるべき基礎・基本的な学習内容の定着など、学年内だけで完結させるのではなく、初等部 6 年間を通して身につけさせたい力を教科ごとに共有していくことが必須である。また、児童アンケートを踏まえ、子どもたち一人ひとりにさらに目を配り、育てたい資質・能力を保護者の方にも明確にしていくことが重要である。
- ・保護者アンケート問 23「学校は、『“Mastery for Service ” を体現する世界市民』の育成を意識しながら実践している。」では昨年度 86.7%から 91.7%と 5.0 ポイントを上げている。これは初等部として“Mastery for Service ” を基盤とした研修を積み重ねてきた結果と考えられる。さらに研鑽を積んでいく必要性を感じる。
- ・教員アンケート問 3「私は、『“Mastery for Service ” (マスタリー・フォア・サービス) を体現する世界市民の育成』を意識しながら教育している。」については、昨年度に引き続き 100%の肯定的評価となっている。我々のスクール・モットーである“Mastery for Service” の原点に立ち返り、他者と共に歩み、本当のやさしさと思いやりをもって自らを社会と人のために用いることのできる人を育成していくために、教育活動ならびに様々な学校行事を通して子どもたちに意識づけできたと考えている。今後さらに異学年同士のかかわりも含めて深化させていきたい。
- ・英語については昨年度に引き続き、「毎日英語に触れる」ということを前提に、日本人教員、ネイティブ教員あわせて 8 人態勢で取り組んでいる。しかし、教員アンケート問 9「学校は、英語教育を通して、英語によるコミュニケーション能力を育てるとともに、基本スキルを定着させている。」について、昨年度 90.6%から 83.8%と 6.8 ポイント評価を下げている。エルダーズルームやメープルルームのさらなる活用方法を学校全体として考えていく必要がある。
- ・算数教育について、教員アンケート問 10「学校は、算数の時間を通して、日常の事象を数理的に考える力を育てるとともに、基本的な技能を定着させている。」について、93.5%が肯定的評価になっている。しかし、保護者アンケート問 12「学校は、算数の時間を通して、日常の事象を数理的に考える力を育てるとともに、基本的な技能を定着させている。」では、肯定的評価が 84.2%になっており、9.3 ポイントの差がある。これらについては、学校の 4 つの柱の一つである、「全員参加・全員理解 (ユニバーサル)」を今一度全教員が共有し、子どもたちに還元していくことでその幅を狭めていきたい。

<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前例にとられることのない学校行事の運営。(集団宿泊的行事・学芸的行事・体育的行事・遠足的行事など)</li> <li>・異学年交流を季節的行事にすることなく、年間通してつながりを持てるよう学校運営を実施していく。</li> <li>・昨年度に引き続き、子どもたちの資質・能力をどのように育てていくかを念頭に置きながら、子どもたちをどのように見取っていくかの議論の継続。(各教科単元末テスト、期末テストの在り方、評価の在り方、教科担任制における国語・算数・社会・理科の系統性を共有する)</li> <li>・国際交流(インドネシア・韓国・台湾・オーストラリア)の継続とさらなる充実。</li> </ul>
--------------	---

2024年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>生活指導 【初等部に関わる全ての人楽しく幸せに過ごせる学校生活】</p>	<p>自己評価</p>	<p>B</p>
<p>目標</p>	<p>児童が社会の一員として責任ある態度を持ち、学校生活のきまりを守ることができるようになる。そのために、学年の発達段階に応じた自己判断を促すようにする。</p>		
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p>(具体的な取組の状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員による立哨を毎週火曜日と木曜日に行った。また、土曜時程や特別行事等で一斉下校になる場合は、担任団による手塚治虫記念館前までの下校指導を行うようにした。</li> <li>・登校時に苦情の多い地点に絞り、学事委員会の教員が立哨を行ってきたが、本年度は、宝塚南口駅付近での苦情があり、管理職と共に朝の登校時刻に合わせて、宝塚南口駅改札付近で立哨を定期的に行った。</li> <li>・部長室会や教師会、朝の職員朝礼において、日々の生活指導の案件や児童の様子を教員に伝え、全員で生活指導に当たるという意識をもてるようにした。</li> <li>・生活安全委員会の児童と連携して、休憩時間のグラウンドの使い方、校舎内での過ごし方、挨拶の仕方など、児童の自治で校内生活が豊かになるような工夫を行った。</li> <li>・生活安全委員会の児童による朝の挨拶運動を行い、全体の場で挨拶の大切さを説明し、挨拶を推進する活動を行った。</li> <li>・避難訓練は水害(6月)、火災(11月)、地震(1月)の3回、様々な災害に備えて行った。地震避難訓練は、その日のうちのいつ訓練が始まるか分からない状況で実施し、不測の事態にどう対処すればよいか考えられる訓練とした。</li> </ul> <p>(取組の効果に対する評価)</p> <p>〈児童アンケートの結果から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導の観点である「学校のきまりを守ること」について、児童アンケート問15「学校のきまりを守って生活していますか。」に対する肯定的な回答は84.2%(昨年度87.0%、一昨年度87.4%)であった。この項目に関しては昨年度を2.8ポイント、前々年度を3.2ポイント下回る回答を示しており、児童の意識の低下が見られた。本年度における指導の徹底の不十分さが示された。</li> <li>・生活指導の観点である「元気よく挨拶をすること」について、児童アンケート問16「だれにでも元気よくあいさつしていますか。」に対する肯定的な回答は89.3%(昨年度83.4%、一昨年度89.3%)であった。この項目に関しては昨年度を5.9ポイント上回る回答を示しており、児童による朝の挨拶運動や全体の場での呼びかけが機能したことを示していると考えられる。</li> </ul>		

	<p>&lt;保護者アンケートの結果から&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケート問 16「学校は、集団生活に関するルールやマナーについて、適切な指導をしている。」に対する肯定的な回答は83.6%（昨年度86.2%、一昨年度86.1%）であった。昨年度に比べて2.6ポイント下回っており、児童アンケートの同様の項目の回答から考えて、保護者も児童の様子を感じていることがうかがえる。</li> <li>・保護者アンケート問 17「学校は、しっかりと挨拶ができるように指導している。」に対する回答は82.8%（昨年度81.5%、一昨年度86.6%）であった。昨年度から1.3ポイント上回っており、「あいさつ」に関して、児童アンケート問16同様、児童の意識が保護者にも伝わっていることがうかがえる。</li> </ul> <p>&lt;教員アンケートの結果から&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員アンケート問 14「私は、挨拶や時間厳守など、社会生活をする上での基本的なマナーが児童に身につくよう適切に指導している。」に対して、100%の肯定的な回答が見られたが、児童や保護者における同様のアンケートに対する回答では、10ポイント以上の差があり、教員の指導が児童には十分行きわたらず、教員が指導をしっかりと行っているという意識が児童や保護者に伝わっていない現状がある。</li> <li>・教員アンケート問 15「私は、命の大切さや良好な人間関係をつくることなどについて、学校生活の中で指導している。」問 16「私は、児童間の人間関係を円滑にするための配慮、指導をしている。」問 17「私は、一人ひとりの子どもが安心して学校生活を送れるように、配慮、指導している。」は、肯定的な回答が100%であった。しかしながら、児童アンケート問 17「学校で、命の大切さやなかまの大切さなどについて学んでいますか。」問 18「思いやりのある友だちが多いですか。」問 19「友だちが困っていたら、助けていますか。」に対する肯定的な回答がどれも80%台前半から90%台前半であったことから、指導を行ったが、十分にできなかったということと思われる。引き続き指導に当たる必要がある。</li> </ul>
<p>今後の方策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校のきまりを守ること」に関しては、教員の意識を統一させるために、部長室会や教師会で繰り返し児童の実態を伝えつつ、事前に全員で指導ができるようなアナウンスを増やしていく。教員からの指導と児童同士の呼びかけによる指導を併用しながら、さらに児童の意識を高められるように指導を行っていく。また、状況を児童に伝えることに加えて保護者にも伝わるように積極的にアナウンスをしていく。「きまり」自体を見直す必要性もあると感じている。教員や児童の声を聞きながら、時代の流れや児童の実態等に応じて見直していく。</li> <li>・「良好な人間関係」や「児童が安心できる学校生活」に関しては、アンケートの結果を教員全員で共有し、指導が児童や保護者にとって十分ではない部分もあるということ意識できるようにする。</li> <li>・「あいさつ」については、挨拶をすることで相手に気持ちを伝えられるようにしていくことの重要性を伝えるような指導を、児童同士の呼びかけも取り入れながら継続的に行っていく。</li> </ul>

2024年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

<p>評価項目 【テーマ】</p>	<p>研修（資質向上の取り組み） 【“Mastery for Service”の体現 ～「個」が活躍する関わり合い～】</p>	<p>自己評価</p>	<p>B</p>
-----------------------	---	-------------	----------

<p>目標</p>	<p>「他者と対話し共感する能力」を持ち「よりよい世界を創造」することが我々のミッションであり、“Mastery for Service”を体現する鍵となる。教員の対話と共創の場づくりを行い、教員の絶えざる変容によって、スクールモットーを体現する初等部の子どもたちの育成をめざす。</p>
<p>具体的な取組の状況とその効果に対する評価</p>	<p><b>(具体的な取組の状況)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開授業 各学年団の代表1名が授業公開する「大授業」を実施。事前検討会は学年で行い、事後研修会は全教員が参加。その他、全教員が一人一公開で「小授業」を行い、それぞれ実践記録を提出することとした。</li> <li>・キリスト教研修 本校宗教主事によるキリスト教主義教育の講話を聞き、要点について整理した後、各グループで討議を行った。</li> <li>・危機管理研修 外部講師による救急措置に関する講話を聞き、日常でできる具体的対応方法を確認した。</li> <li>・若手研修 授業技術のスキルアップや教師としてのあり方を確認できるよう、若手同士のコミュニケーションが図れる場とした。</li> <li>・外部講師による「子ども理解研修」を対面で開催。「個」に関する理解や「個」を見取るということに対しての理解を深めた。</li> <li>・外部講師による「多様性理解」を対面で開催。対話による組織運営や多様性を担保する考え方について理解を深めた。</li> <li>・教科部会 教務委員会と連携を図りながら教科部会を開催した。各教科についての理解（資質・能力、評価等）を深めた。</li> </ul> <p><b>(取組の効果に対する評価)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童アンケート問 6「授業はわかりやすいですか。」の肯定評価（「とてもわかりやすい」「わかりやすい」）は、昨年度と同様に高い水準で維持されている。特に「とてもわかりやすい」の割合に微増が見られた。一方で、問 4「授業では、新しいことをたくさん知ることができますか。」、問 5「授業は楽しいですか。」の回答では、昨年度に比べ肯定的回答がやや減少している。これは、授業の構成や教材の工夫といった側面で、子どもにとっての学びの価値や楽しさの実感が薄れている可能性があり、引き続き授業の「価値付け」に関する研修の必要である。</li> <li>・児童アンケート問 18「思いやりのある友だちが多いですか。」および問 21「相手の気持ちを考えて行動することができますか。」については、いずれもドと比べて微減傾向が見られる。これは、子ども同士の関係性の形成において、相互理解や協働を意識した授業づくりの課題を表しており、「対話」や「共創」の視点からの授業改善・研修の重要性が浮き彫りになった。</li> <li>・保護者アンケート問 8「学校は、基礎的知識や技能が定着する授業を行っている。」では、肯定評価が昨年度と同等水準であり、依然として高評価を得ている。また、問 9「学校は、基礎的知識や技能を活用する場面を取り入れた授業を行っている。」では、昨年度に引き続き肯定評価が微増しており、教員の授業改善に対する意識の反映がうかがえる。</li> <li>・教員アンケート問 18「私は、研修部の教員研修計画に基づき、授業研究や公開授業を実施している。」について、「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が 77.4%（昨年度 87.6%）とやや減少し、特に「強くそう思う」は 35.5%（昨年度 52.4%）と減少した。問 19「私は、授業研究や公開授業を通して、自身の授業力の向上に努めている。」についても、「強くそう思う」が 38.7%（昨年 55.2%）と低下傾向にある。このことから、対話的・協働的な授業改善の推進を目的とした研修設計が、教員一人ひとりの学びとして十分に機能していない可能性がある。今後は、個々の教員が目的意識をもって取り組めるよう、研</li> </ul>

	修の内容と在り方を再構築する必要がある。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが授業を「楽しい」「価値がある」と実感できるよう、授業づくりにおける学びの目的や意味付けの共有、および学習活動への主体的な参加を促す授業デザインに関する研修を深化させる。</li> <li>・「対話」や「共創」による関係性の育成を意識し、児童同士の良好な人間関係や相互理解を促す授業実践に焦点をあてた研修を設定する。特に、生活科や総合、学級活動などの横断的な指導を担う視点を強化する。</li> <li>・教員の授業力向上に対する内発的な動機づけを高めるために、授業公開や研修を「義務的な印象」ではなく、「学び合い・高め合い」の場として位置づけ直す工夫（テーマ設定・形式の見直し等）を行う。</li> <li>・研修の目的やテーマを明確に設定したうえで、そのねらいや目標が児童の成長にどのように関係しているかを可視化し、全教員が共通理解をもって参加できるようにする。</li> <li>・年間を通して、一人ひとりの教員が少なくとも一回は自身の授業を見直し・共有・改善する機会を持てるよう、計画的な授業公開の場やリフレクションの仕組みを取り入れる。</li> <li>・教務委員会や研修委員会、教科部会等の横断的な連携を通して、評価方法や授業内容の改善方針を全体で共有する仕組みをさらに強化する。</li> <li>・教員間の情報格差やスキル差への配慮として、研修後の実践フォローアップや少人数制の意見交換・振り返りの時間を設けることで、教員の資質向上をより実効的に支援する。</li> </ul>

## 総合評価

<p>○こころの時間、聖書科授業、聖書講座などを通じて、多くの児童・保護者・教員が建学の精神やスクールモットーを共有できた。また、特別礼拝の司会や献金活動を担うなど、児童が積極的に宗教活動に取り組む姿が見られた。</p> <p>○多くの児童と保護者が初等部の授業はわかりやすく楽しいと評価している。カナダ、韓国、台湾、インドネシア、オーストラリアの小学校との相互訪問やオンライン交流を継続し国際理解教育の充実に努める。</p> <p>○登下校中のマナーとりわけ電車内の過ごし方について重点的に指導した。進んで挨拶ができるように、生活安全委員会の児童による挨拶運動を展開した。教員の指導に加えて児童による呼びかけを取り入れ、みんなが安心して学校生活を送れるようにする。</p> <p>○キリスト教主義教育に関する研修、危機管理に関する研修、若手教員研修、多様性理解に関する研修など様々な研修を実施した。今後も教員同士の対話を重視した研修を行っていく。</p> <p>○昨年度同様、保護者アンケート問4「初等部の教育には満足している。」で高い肯定的評価を得た。今後も全教員が一丸となってキリスト教主義に基づく全人教育に努める。</p>
---

## 2024年度の評価をふまえて2025年度に予定している評価項目、テーマ等

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ キリスト教主義教育</li> <li>○ 教育課程・学習指導・学校行事</li> <li>○ 生徒指導</li> <li>○ 研修（資質向上の取組）</li> </ul>
--

### 第三者評価／学校関係者評価

- 全体として、アンケート結果から得られた評価材料に対し、真摯に向き合い、厳しく自己点検を行った自己評価となっています。アンケート結果を把握し、課題に対して、教職員が一丸となってすぐに改善を図ろうとする姿勢が顕著に見られることが大変評価できます。
- 学習指導や学校行事について、教科部会や校内の授業研修を継続的に実施していることが大変評価できます。児童アンケートで授業のわかりやすさに対する肯定的評価が高い水準で維持されているのはその証左と思われます。
- 生活指導面では学校のきまりを守るなどについて問題点を認識されていますが、こうした点については教員の粘り強い指導、継続性と一貫性が重要です。一昨年、やや低下した項目のあいさつの励行を大きく改善されたように、すでに教員が一致して取り組まれているので、改善が進んでいます。
- キリスト教主義の精神やスクールモットーの浸透について、児童・保護者・教員の全てに高い水準にあります。児童アンケートでこころの時間や聖書の時間について評価を下げた項目はありますが、当評価者が初等部を訪問した際、いつも児童・教員が心静かに祈りの時を持つ姿を見えています。小学校でも年齢があがるにつれ、規範的なものに反発することがあるのは、成長過程の一段階ととらえることも必要と思われます。関学の一貫教育の柱としての心の教育が、丁寧に、順調に進められています。

#### ○全体について

各評価項目に関して、工夫されたアンケートが実施され、そのアンケート結果を丁寧にかつ厳しく分析し、それをベースとして自己点検が行われた自己評価となっています。昨年度の問題点の改善を図ろうとする教職員の真摯な取り組みが大変評価できます。引き続き次年度に向けてさらなる向上が期待されます。

#### ○キリスト教主義教育について

キリスト教の精神、Mastery for Service の精神の体得を目指した点について、アンケート結果において昨年度から評価が上がっている項目や、高評価の項目が多いなど、設定された目標の達成を目指して、日頃より様々な活動が行われていることが大いに評価できます。今後、キリスト教主義教育のさらなる浸透が期待されます。

#### ○教育課程・学習指導・学校行事について

宿泊行事を復活させたり、体育祭を11月に実施させたりするなど工夫された活動が今年度もなされていることが大いに評価できます。アンケート結果では、評価が下がっている項目があるものの、評価が上がっている項目や引き続き高い評価を得ている項目も多くあり、よい取り組みができていることがよくわかり、高く評価できます。さらに工夫された活動が今後も期待されます。

#### ○生徒指導について

教員による立哨、生活安全委員会の朝の挨拶運動、避難訓練など、目標達成を目指した取り組みが行われていることが評価できます。アンケート結果において、低下した項目があるものの、概ね高評価であり、日頃より的確な指導ができていることが評価されます。

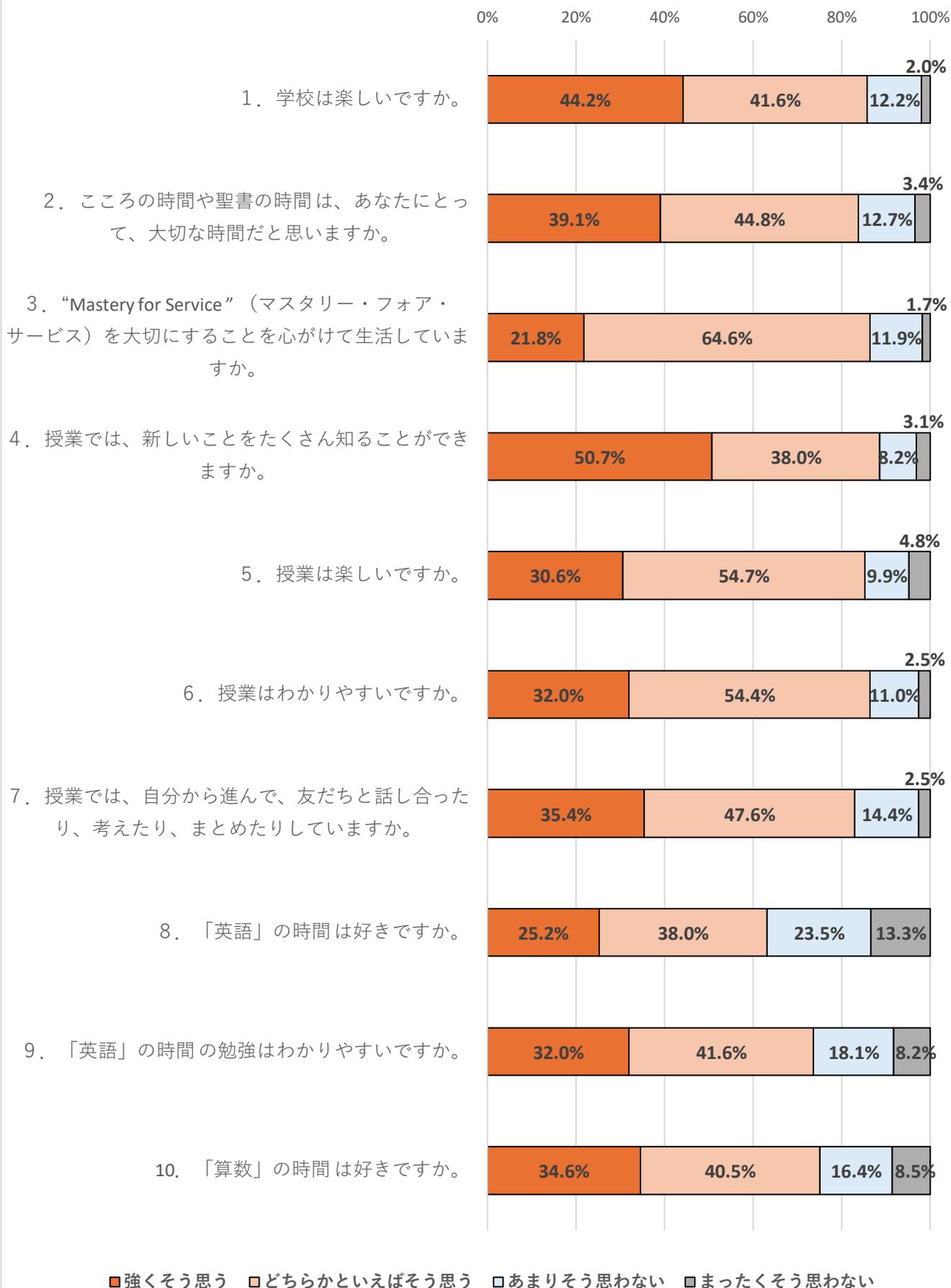
#### ○研修（資質向上の取り組み）について

公開授業、キリスト教研修など、工夫をされた研修が認められます。アンケート結果で、改善点が認められる点があるものの、総じて高評価であることより、研修が円滑になされていたことわかり、とても評価できます。低下した項目については、さらなる研修の深化が期待されます。

2024年度学校評価

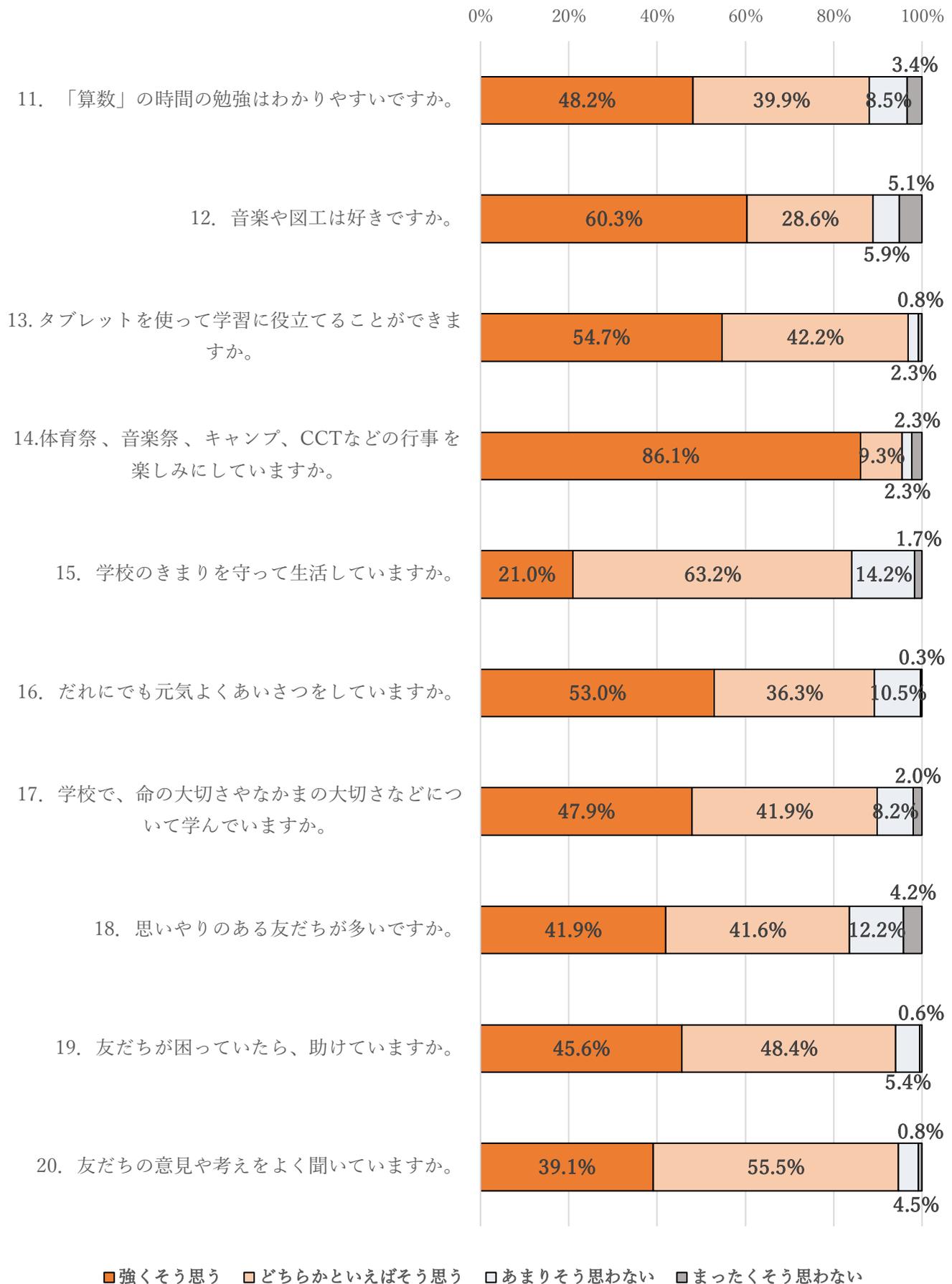
## 2024年度 学校評価アンケート集計結果

### 初等部・児童（回答率 98.9% 回答353人/対象357人）

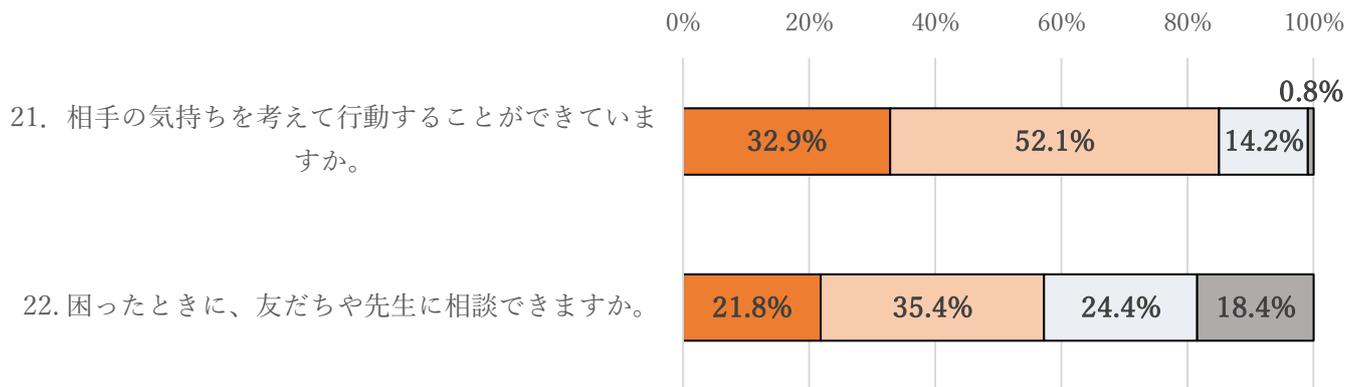


## 2024年度 学校評価アンケート集計結果

### 初等部・児童（回答率98.9% 回答353人/対象357人）



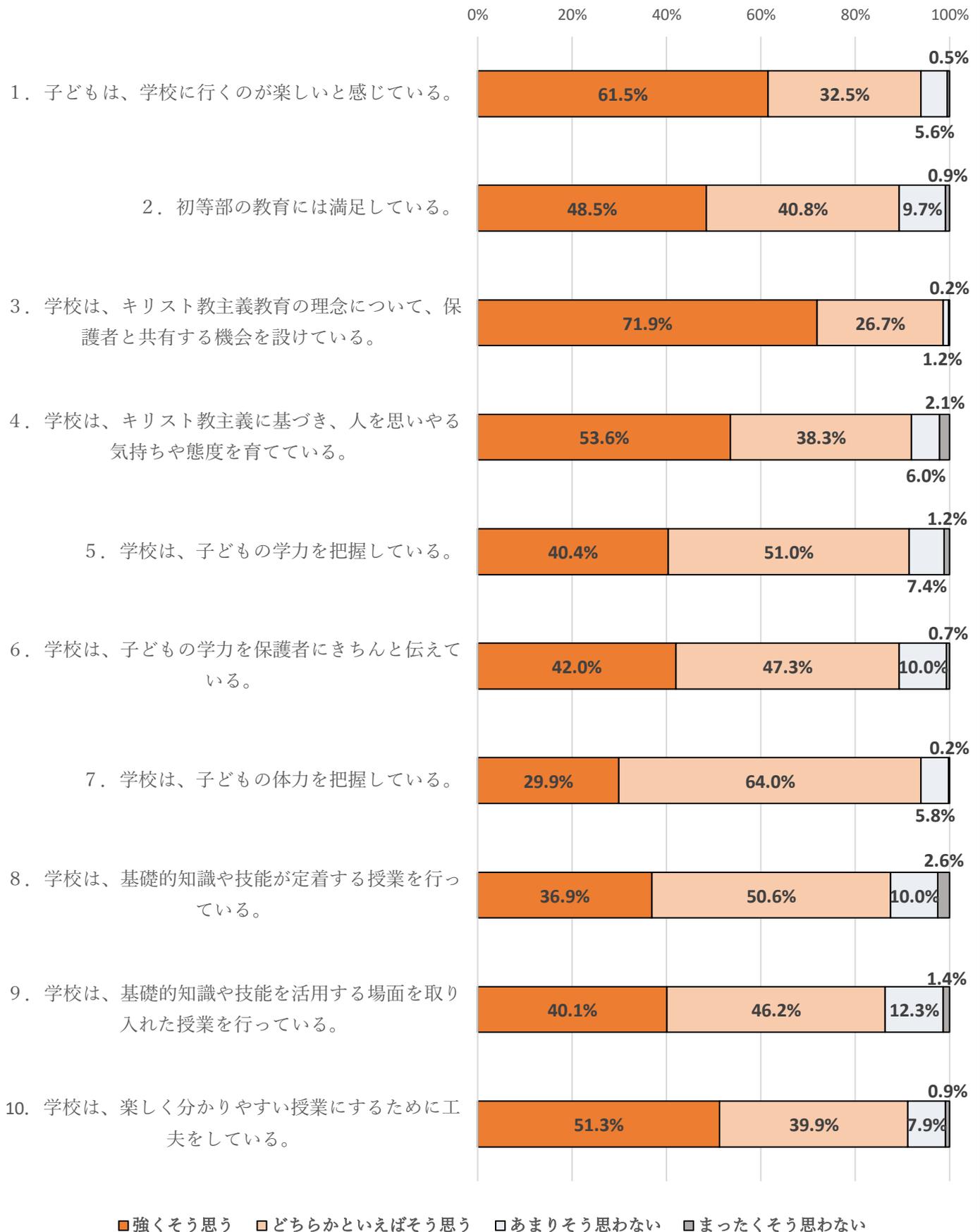
2024年度 学校評価アンケート集計結果  
初等部・児童（回答率 98.9% 回答353人/対象357人）



■強く思う □どちらかといえば思う □あまりそう思わない □まったくそう思わない

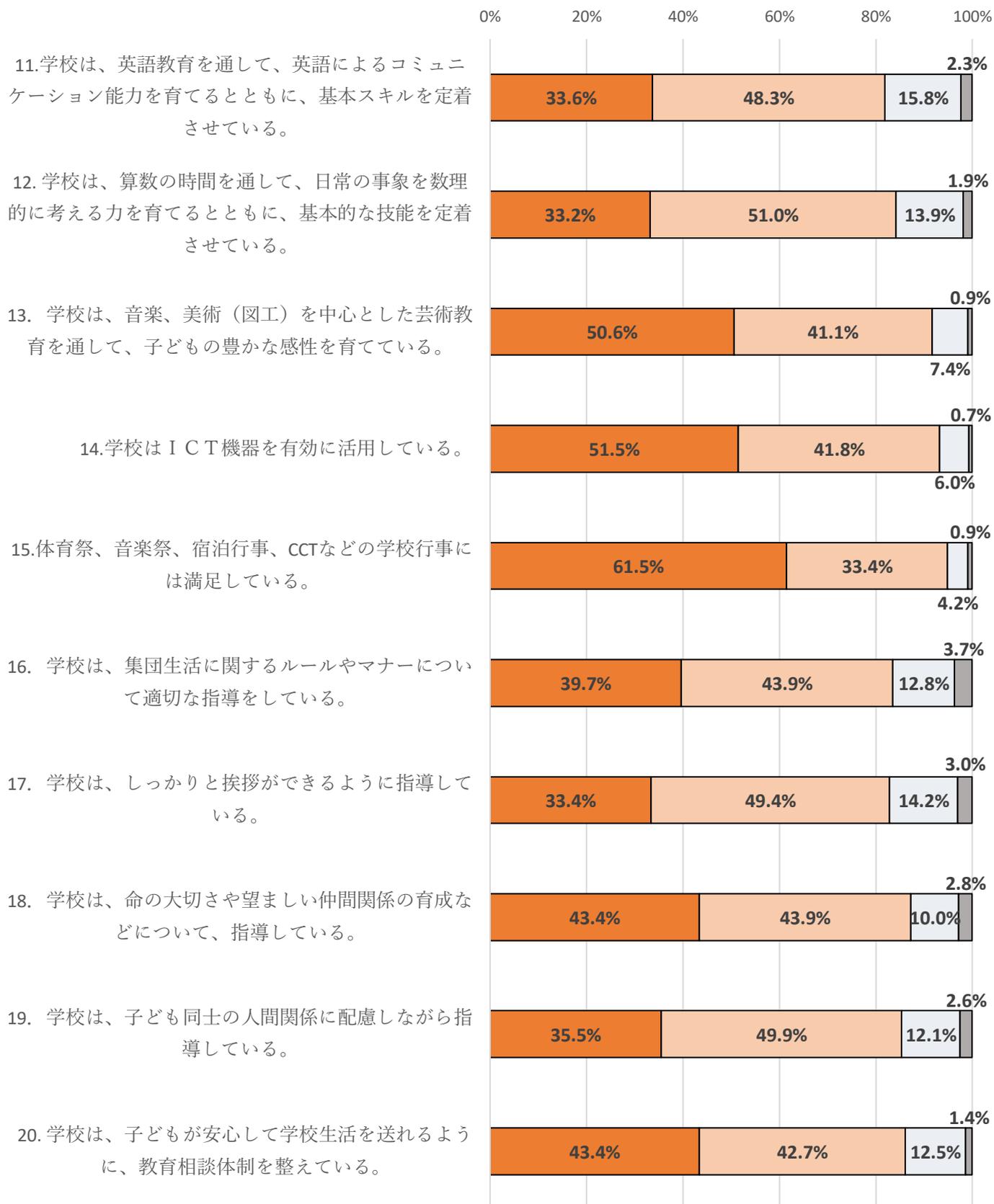
## 2024年度 学校評価アンケート集計結果

### 初等部・保護者（回答率 80.9% 回答431人/対象533人）



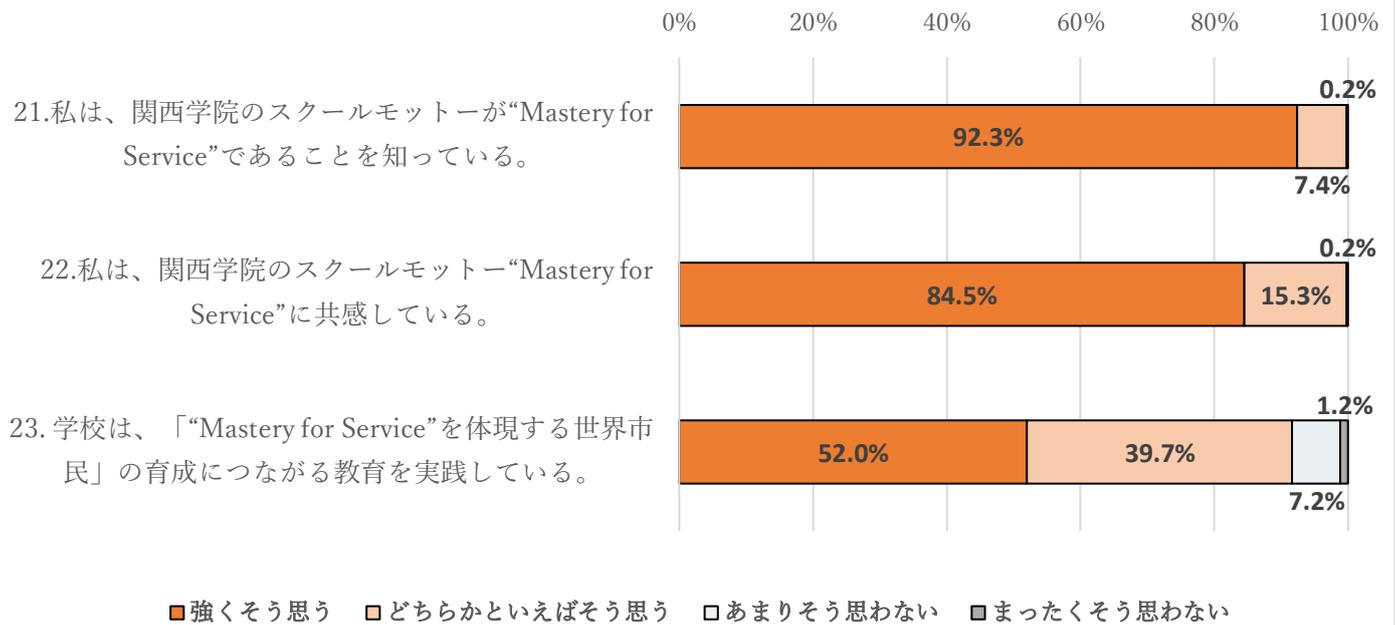
## 2024年度 学校評価アンケート集計結果

### 初等部・保護者（回答率 80.9% 回答431人/対象533人）

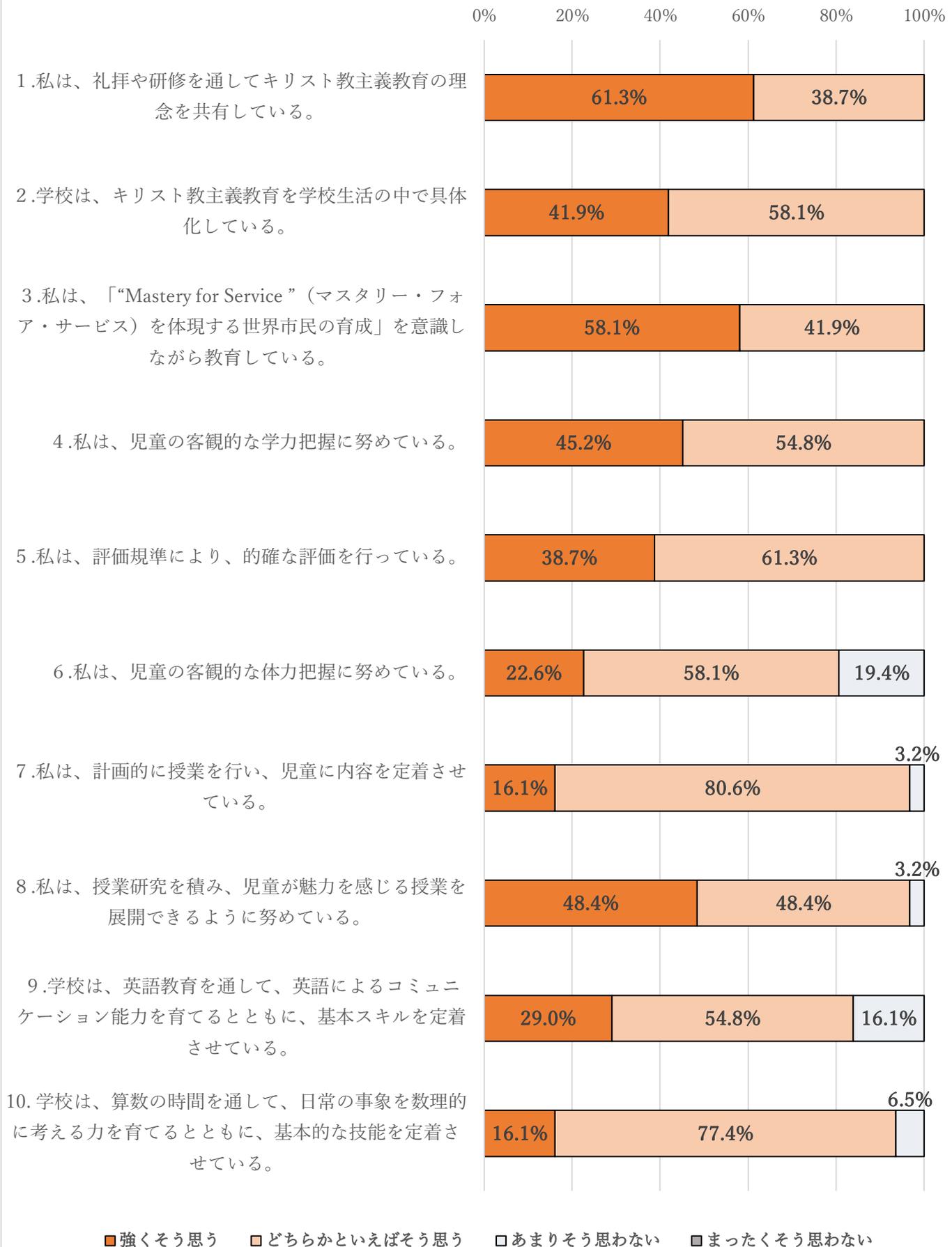


強く思う
  どちらかといえば思う
  あまりそう思わない
  まったくそう思わない

2024年度 学校評価アンケート集計結果  
初等部・保護者（回答率 80.9% 回答431人/対象533人）

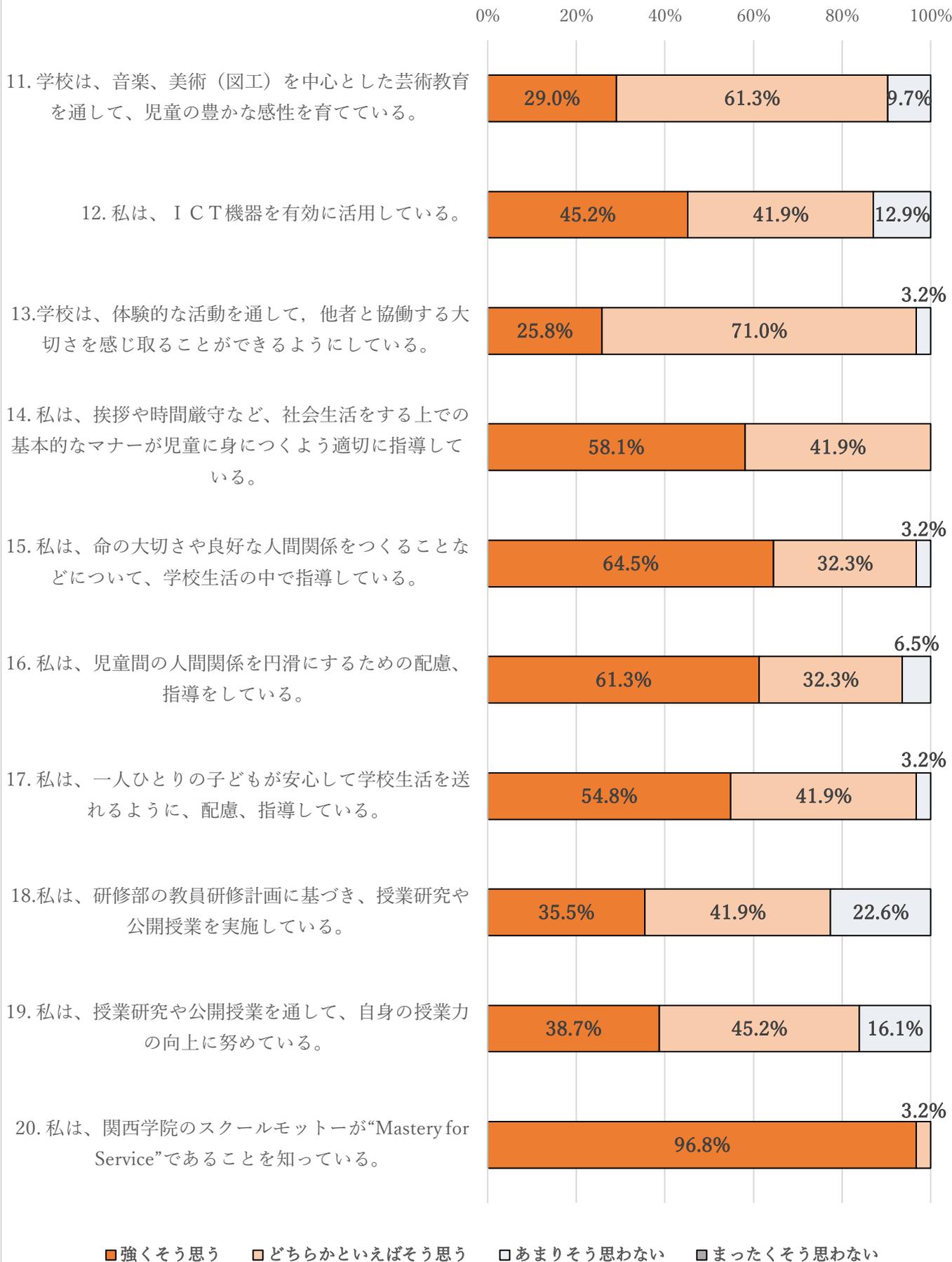


## 2024年度 学校評価アンケート集計結果 初等部・教員（回答率 96.9% 回答31人/対象32人）



## 2024年度 学校評価アンケート集計結果

### 初等部・教員（回答率 96.9% 回答31人/対象32人）



2024年度 学校評価アンケート集計結果  
初等部・教員（回答率 96.9% 回答31人/対象32人）

